



第40回九十九祭(大学祭)の様子。

医療技術学部 臨床検査学科の新設について

[設置認可申請中] 予定であり、変更となる場合があります。



北海道医療大学 副学長 黒澤 隆夫

北海道医療大学は薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部を順次設置し、5学部8学科による多様な領域の医療人養成を行う医療系総合大学として発展を続けてまいりました。その間、学部横断的な教育・研究を担う数多くの研究センターや多様な学習と実践の場として、心理臨床・発達支援センター、認定看護師研修センター、薬剤師支援センター、地域包括ケアセンター等を設置し、医療にかかわる優れた人材の育成を行ってきました。このように本学の建学44年の歴史は、社会のニーズに沿った医療人としての人材育成に取り組んできたものであり、「新医療人育成の北の拠点」として北海道に限らず日本全国、世界各国へ向けて人間力と臨床力に秀でた人材を送り続け、医療系総合大学として揺るぎない地位を占めております。

このたび、第6番目の新たな学部として「医療技術学部 臨床検査学科」の2019年4月開設をめざし、2018年3月に設置認可申請を行いました。新学部は札幌あいの里キャンパスに設置予定で、すでに一部の専任予定教員が就任し、次年度からの新入生受入れ準備を行っているところであります。

最近の臨床現場においては、急速な医療技術の進展はもとより高度に専門性が高まり、看護や理学・作業療法などの医療系技術職の養成では、大学の4年制課程による教育が中心となりつつあります。臨床検査技師は、医療現場において、検査試料を通じて得られた生理検査、病理検査結果を正しく意味のあるデータとして提供するばかりなく、超音波診断や心電

図測定などの生体検査にも携わり、診断・治療のベースとなるデータを提供し、重要な専門医療職を担っております。このように、医療系技術職の中でも高い専門性が要求される臨床検査技師の養成に関して、道内では、4年制の教育課程は北海道大学のみであり、専門学校が主としてその養成を担ってきました。今後の臨床検査技師教育では、世界標準を意識した精密・正確で、高度な臨床検査技術を修得するための4年制養成教育が主流となるものと考えられます。

さて、医療系総合大学として、医療人の養成と教育研究の質の向上をめざす本学の目的養成分野は薬学、歯学、保健衛生学関係となりますが、2014年から、保健衛生学関係が看護学関係、リハビリテーション関係及び臨床検査学・栄養学等の3分野へと分割されました。このため、新学部は、既存の看護福祉学部、リハビリテーション学部とは異なる保健衛生学関係分野となり、新設として設置認可申請をする必要がありました。開設が認められれば、ほぼすべての医療技術職(保健衛生関係の3分野のいずれかに分類される学位を持つ課程)の養成へと拡充することも容易になります。

新学部の開設による高度な技術と知識を有する臨床検査技師の育成は、医療のベースとなる科学的根拠に基づいた診察・治療に加えて、広く健康の維持や疾病の予防にも関与し役立つものと確信しており、医療系総合大学として、本学が更なる飛躍を遂げる新しい礎になるものと期待しております。今後とも皆様の温かい支援をお願い申し上げます。

CONTENTS

医療技術学部	1
臨床検査学科の新設について	
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2018年度入試結果報告	3
心理科学部の関口真助教が 学会賞を受賞	
言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教が メディカルスタッフ最優秀賞を受賞	
国家試験結果報告	4
国際交流	
就職状況結果報告	5
薬学生セミナー 「学内就職相談会」を開催	
あのととき、これから。医療大。	6
2019年4月、札幌あいの里キャンパスに	
医療技術学部臨床検査学科を新設します。	7
私の学生時代	8
OG訪問[歯学科]	9
学校法人東日本学園	10
○2017年度決算 ○2018年度予算	
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	

2018年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は
4,739名

本年度入試の志願者総数は、前年比8.1%減少の4,739名となりました。志願者の最も多かった学科は看護学科1,169名で、次に薬学部808名という結果でした。

編入学試験の
志願者総数は21名

本学全体では21名が編入学を志願しました。うち9名が入学し、実質競争倍率は2.3倍でした。

専門学校志願者の9割以上が
AO方式入試を利用

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しています。志願者は32名で、全体の約91%を占めました。

■2018年度入試結果
北海道医療大学

歯学部附属歯科
衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部			歯科衛生科
	看護学科	臨床福祉学科	臨床心理学	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚療法学科	歯学部附属歯科衛生士専門学校					
AO方式入試	志願者数	33名	11名	48名	10名	13名	43名	20名	22名	32名	32名	32名
	受験者数	33名	11名	48名	10名	13名	43名	20名	22名	22名	22名	32名
	合格者数	19名	10名	10名	9名	12名	15名	8名	19名	19名	19名	32名
	入学者数	19名	10名	10名	7名	12名	15名	8名	19名	19名	19名	31名
	実質倍率	1.7倍	1.1倍	4.8倍	1.1倍	1.1倍	2.9倍	2.5倍	1.2倍	1.2倍	1.0倍	1.0倍
一般推薦入試	志願者数	27名	1名	38名	1名	2名	21名	14名	7名	0名	0名	0名
	受験者数	27名	1名	38名	1名	2名	21名	14名	7名	0名	0名	0名
	合格者数	27名	1名	21名	1名	2名	14名	8名	4名	0名	0名	0名
	入学者数	26名	1名	21名	1名	1名	14名	8名	4名	0名	0名	0名
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.8倍	1.0倍	1.0倍	1.5倍	1.8倍	1.8倍	1.8倍	1.8倍	1.8倍
指定校 特別推薦入試	志願者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	—
	受験者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	—
	合格者数	30名	3名	28名	16名	13名	14名	5名	14名	—	—	—
	入学者数	30名	2名	28名	12名	13名	13名	5名	14名	—	—	—
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍
社会人特別選抜	志願者数	1名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	受験者数	1名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	合格者数	0名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	入学者数	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	実質倍率	一倍	1.0倍	一倍	一倍	1.0倍	一倍	一倍	一倍	一倍	一倍	一倍
一般前期入試 (大学)	志願者数	1日目 200名 2日目 152名	1日目 53名 2日目 33名	1日目 388名 2日目 292名	1日目 90名 2日目 77名	1日目 124名 2日目 96名	1日目 146名 2日目 121名	1日目 163名 2日目 138名	1日目 114名 2日目 97名	2名	2名	
	受験者数	1日目 191名 2日目 142名	1日目 48名 2日目 27名	1日目 382名 2日目 282名	1日目 88名 2日目 72名	1日目 121名 2日目 88名	1日目 144名 2日目 119名	1日目 159名 2日目 133名	1日目 111名 2日目 94名	2名	2名	
	合格者数	144名	56名	105名	97名	116名	62名	76名	104名	2名	2名	
	入学者数	55名	7名	36名	11名	7名	25名	12名	15名	1名	1名	
	実質倍率	2.3倍	1.3倍	6.3倍	1.6倍	1.8倍	4.2倍	3.8倍	2.0倍	1.0倍	1.0倍	
一般後期入試	志願者数	54名	65名	64名	17名	28名	32名	31名	28名	1名	1名	
	受験者数	46名	53名	60名	17名	26名	31名	30名	27名	1名	1名	
	合格者数	16名	48名	11名	17名	23名	13名	9名	8名	1名	1名	
	入学者数	11名	10名	8名	1名	3名	10名	1名	0名	1名	1名	
	実質倍率	2.9倍	1.1倍	5.5倍	1.0倍	1.1倍	2.4倍	3.3倍	3.4倍	1.0倍	1.0倍	
センター前期A入試	志願者数	190名	119名	196名	59名	92名	110名	102名	83名	—	—	
	受験者数	190名	119名	196名	59名	92名	110名	102名	83名	—	—	
	合格者数	73名	110名	45名	49名	72名	34名	46名	57名	—	—	
	入学者数	12名	17名	8名	4名	7名	9名	5名	4名	—	—	
	実質倍率	2.6倍	1.1倍	4.4倍	1.2倍	1.3倍	3.2倍	2.2倍	1.5倍	—	—	
センター前期B入試	志願者数	86名	48名	101名	51名	82名	66名	81名	59名	—	—	
	受験者数	86名	48名	101名	51名	82名	66名	81名	59名	—	—	
	合格者数	43名	46名	24名	49名	79名	18名	30名	46名	—	—	
	入学者数	8名	5名	2名	7名	19名	4名	3名	6名	—	—	
	実質倍率	2.0倍	1.0倍	4.2倍	1.0倍	1.0倍	3.7倍	2.7倍	1.3倍	—	—	
センター後期入試	志願者数	35名	30名	14名	16名	30名	21名	15名	12名	—	—	
	受験者数	35名	30名	14名	16名	30名	21名	15名	12名	—	—	
	合格者数	20名	29名	6名	15名	29名	7名	8名	5名	—	—	
	入学者数	3名	4名	3名	2名	4名	0名	1名	1名	—	—	
	実質倍率	1.8倍	1.0倍	2.3倍	1.1倍	1.0倍	3.0倍	1.9倍	2.4倍	—	—	
TOTAL	志願者数	808名	365名	1,169名	337名	481名	574名	569名	436名	35名	35名	
	受験者数	781名	342名	1,149名	330名	468名	569名	559名	429名	35名	35名	
	合格者数	372名	305名	250名	253名	347名	177名	190名	257名	35名	35名	
	入学者数	164名	57名	116名	45名	67名	90名	43名	63名	33名	33名	
	実質倍率	2.1倍	1.1倍	4.6倍	1.3倍	1.3倍	3.2倍	2.9倍	1.7倍	1.0倍	1.0倍	

心理科学部の関口真有助教が学会賞を受賞

このたび、心理科学部臨床心理学の関口真有助教が「第32回石川記念賞」を受賞し、2018年6月9日(土)に名古屋国際会議場で開催された第59回日本心身医学会総会で授賞式と受賞講演が行われました。

一般社団法人日本心身医学会では、心身医学領域の若手研究者の研究を推奨することを目的として、学会誌「心身医学」に掲載された論文の中から、特に優れた研究の著者に対して、石川記念賞を贈呈しています。



論文概要の前で撮影された日本心身医学会福土審理事長(東北大学医学部心療内科教授)とのツーショット。福土理事長は第1回石川記念賞の受賞者です。

受賞論文 児童青年期の1型糖尿病患者の血糖コントロールに影響を与える心理的要因の検討

言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教がメディカルスタッフ最優秀賞を受賞

2018年5月23日(水)から26日(土)に札幌市で開催された第59回日本神経学会学術大会において、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の高倉祐樹助教(北海道医療大学病院言語聴覚治療室勤務)がメディカルスタッフ最優秀賞を受賞しました。この賞は、採択された約140のメディカルスタッフ演題の中から、抄録査読にて8演題が候補としてノミネートされ、学会当日の口演発表での審査を経て、1演題が選出される賞です。



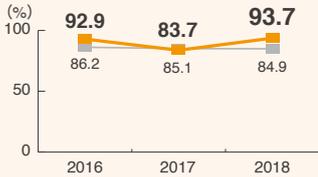
演題 Primary progressive apraxia of speech (PPAOS) における特異的な単語発話の特徴

薬学部

(第103回 薬剤師国家試験)

2018年の新卒合格率は93.7%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



歯学部

(第111回 歯科医師国家試験)

2018年の新卒合格率は81.6%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)

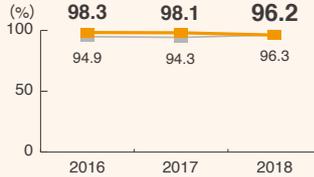


看護福祉学部/看護学科

(第107回 看護師国家試験)

安定の合格率。全卒業生の98.8%が看護師免許を取得

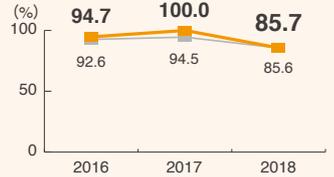
■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第104回 保健師国家試験)

新卒合格率は85.7%。11名が看護師と保健師の同時取得を実現

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



看護福祉学部/臨床福祉学科

(第30回 社会福祉士国家試験)

社会福祉士国家試験は長期にわたり安定した合格実績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第20回 精神保健福祉士国家試験)

合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを取得

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第30回 介護福祉士国家試験)

介護福祉士は、初の国家試験で全員合格

■2018年合格率(新卒)

100.0%
[養成施設全国平均88.0%]

リハビリテーション科学部/理学療法学科

(第53回 理学療法士国家試験)

2018年の新卒合格率は97.2%と全国平均を上回る好成績

■2018年合格率(新卒)

97.2%
[全国平均87.7%]

リハビリテーション科学部/作業療法学科

(第53回 作業療法士国家試験)

2018年の新卒合格率は92.3%と全国平均を上回る好成績

■2018年合格率(新卒)

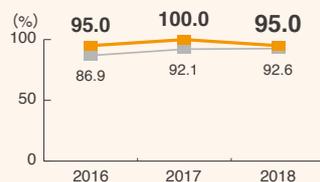
92.3%
[全国平均85.2%]

リハビリテーション科学部/言語聴覚療法学科

(第20回 言語聴覚士国家試験)

2018年の新卒合格率は95.0%と全国平均を上回る好成績

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第27回 歯科衛生士国家試験)

歯科衛生士国家試験は開校以来の資格取得率99.9%!

■合格率の推移(新卒のみ過去3年)



国際交流

INTERNATIONAL EXCHANGE

スウェーデン・イエテボリ大学歯学部との歯学部間交流協定を改定 ～イエテボリ大学歯科衛生学科と本学歯学部附属歯科衛生士専門学校との学生交換交流を追加～

本学歯学部では、2014年度からイエテボリ大学歯学部との学部間交流協定を締結し、双方学部学生の短期交換留学、本学大学院歯学研究科の大学院生派遣による共同研究を行っています。このたび、2018年度歯学部短期交換留学生の訪問に合わせて、2018年3月12日(月)にイエテボリ大学歯科衛生学科と専門学校との学生交換交流を加えた両学部間の交流協定の改定を行いました。



バングラデシュ・シティ歯科大学と学部間交流協定を締結

2018年4月30日(月)に、齋藤歯学部長と国際交流推進センターのRiasat HASAN助教がバングラデシュ・ダッカを訪問し、シティ歯科大学との学部間学術交流協定締結の調印式が行われました。シティ歯科大学から本学には多くの大学院生が入学しており、今後さらに学生および教員の盛んな交流が期待されます。調印式には在バングラデシュ日本国大使館から伊藤公使が陪席し、ご祝辞を賜りました。

タイ・マヒドン大学からの短期研修を受け入れました。(歯学部)

マヒドン大学歯学部から、Wiyanan Pitaksinsukさん、Witchapat Kengtongさん、Tanai Laisiroengraiさんの3名が来日し、2018年3月19日(月)～30日(金)の約2週間、本学歯学部、歯科クリニック及び大学病院で研修を行いました。放課後には合気道部やお茶会への参加、週末は小樽旅行やウィンタースポーツに挑戦するなど、充実した日々を過ごしたようです。マヒドン大学からの研修受け入れは今回で3回目となり、今後も両学部間で活発な交流が行われることが期待されます。

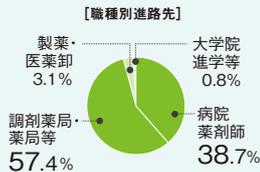


本学卒業生への評価の高さが、求人者の質・量に直結。
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

薬学部

2018年も5,000人を超える求人
6年制移行後も高い就職率を維持

■2018年3月卒業生の就職先

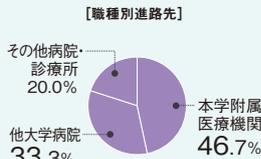


求人数	薬剤師…5,496人 MR・研究・開発職…413人
-----	------------------------------

歯学部

卒業後は臨床能力の向上を
めざして臨床研修医の道へ

■2018年3月卒業生の就職先

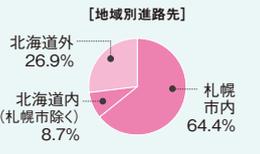
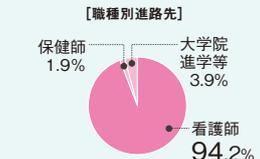


求人数	歯学部卒業生…1,933人
-----	---------------

看護福祉学部／看護学科

卒業生は札幌と首都圏を中心に
全国の総合病院で活躍

■2018年3月卒業生の就職先

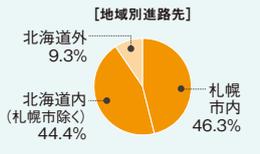
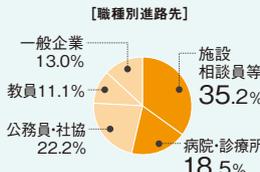


求人数	看護師…12,960人 保健師…351人
-----	-------------------------

看護福祉学部／臨床福祉学科

施設や病院のほか、公務員、教員、
一般企業とさまざまな分野で活躍

■2018年3月卒業生の就職先

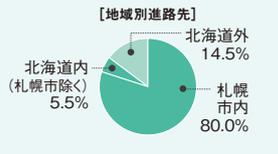
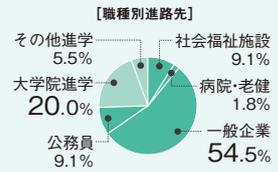


求人数	医療機関相談員…189人 福祉施設相談員・介護職員等…2,299人 一般事務・その他…4,256人
-----	---

心理学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、
専門性を生かした多彩な進路です

■2018年3月卒業生の就職先

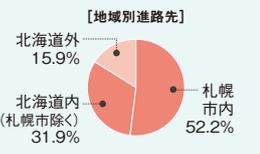
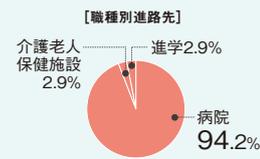


求人数	心理職…108人 一般事務・その他…4,256人
-----	-----------------------------

リハビリテーション科学部／理学療法学科

第2期生も9割以上が病院へ就職
今後の活躍に期待

■2018年3月卒業生の就職先

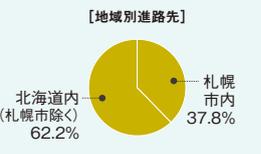


求人数	理学療法士…2,323人
-----	--------------

リハビリテーション科学部／作業療法学科

第2期生の8割以上が、作業療法士
として病院と介護老人保健施設へ

■2018年3月卒業生の就職先

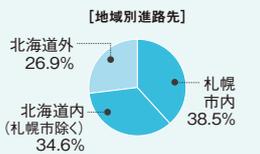
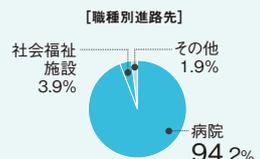


求人数	作業療法士…1,933人
-----	--------------

リハビリテーション科学部／言語聴覚学科

2018年卒業生の9割以上が
病院の言語聴覚士として活躍

■2018年3月卒業生の就職先

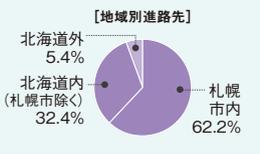
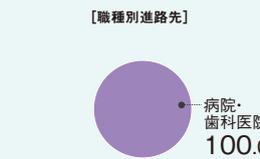


求人数	言語聴覚士…1,267人
-----	--------------

歯学部附属歯科衛生士専門学校

開校以来32期連続
就職希望者全員が就職

■2017年3月卒業生の就職先



求人数	歯科衛生士…617人
-----	------------

アメリカ・タフツ大学歯学部と 学部間交流協定を締結

2018年4月10日(火)に、ANAインターコンチネンタルホテル東京において、タフツ大学歯学部と歯学部との間で学部間学術交流協定締結の調印式が行われました。式には、タフツ大学歯学部の開学150周年を記念して日本で開催される同窓会記念行事への出席のために来日されていたHF Thomas歯学部長、NR Mehta 国際交流担当副歯学部長、そして、本学から斎藤隆史歯学部長、歯学部の古市保志教授、広瀬由紀人准教授、国際交流推進センターのRiasat HASAN助教が参加しました。タフツ大学歯学部はボストン市内に位置し、全米でも古い歴史を有する歯学部であり、卒業・卒前教育ともに古くから多くの海外留学生を受け入れています。また、近年は優れた歯科医学教育の実践および多職種連携の取り組みを行っている大学として注目を集めています。



薬学生セミナー「学内就職相談会」を開催

2018年4月20日(金)、薬学部第5・6学年の学生を対象とした2018年度薬学生セミナー「学内就職相談会」が開催され、病院・薬局ほか185団体から約300名の薬剤部門責任者・人事担当者などに来学いただきました。第5学年に対しては薬剤師の役割・業界・仕事等の内容についての説明、第6学年に対しては採用活動に係る相談・説明等をしていただきました。参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、真剣な表情で説明を受けるなど、最後まで大きな賑わいをみせていました。

本学では各学部に就職委員会を設置し、就職ガイダンスや専門講師を招いての各種セミナーを数多く実施するなど、学生のより確実な就職に向けて、教職員が一丸となってきめ細やかな支援をしています。



本学への求人申し込み、就職に関するお問い合わせ先:
学生支援課(就職担当) MAIL job@hoku-iryu-u.ac.jp TEL 0133-23-1102

あのと時の“ちょっといい話”、今まさに進んでいる“新しい取り組み”。北海道医療大学が、これから未来へ向かう姿を探るために、本学の歩みを“知る人”、“つくる人”に、お話をうかがっていきます。



三上 章さん
(薬学部1期生)

本学卒業後、製薬会社勤務を経てサン調剤薬局を開業。サングループ代表取締役として、青森県を中心に26店舗の調剤薬局を展開し、製薬業、福祉事業も運営する。また、本学卒業生を中心に活動を行う後援会では会長を務めている。

チャレンジとコミュニケーションで、
未来の医療をつくってください。

やりたいことを、自分でやる。

国鉄職員として五稜郭駅で勤務していた父の影響から、北海道への憧れを持っていた私は、1974年、東日本学園大学(現・北海道医療大学)の1期生として入学しました。当時は薬学部のみ。教養課程は、今はなき音別キャンパスで、専門課程は、当別キャンパスで学びました。学生数は今よりずっと少なかったのですが、教養課程は全寮制ということもあり、仲間同士で議論を交わすなど、とても濃密な学生生活でした。また、先生方との距離も近く、晩ごはんをご馳走になったり、ご自宅へ遊びに行かせてもらったり、ときには厳しく叱ってくれたり。まるで家族のような人間関係の中で、深い愛情を受けて育ちました。

卒業後は、エーザイ株式会社に入社し、プロパーとして11年間勤務。病院の医療スタッフなどと交流する中で、ひとつの思いが浮かび上がってきました。それは、自分も患者さんと直接関わり、もっと患者さんの力になれる仕事がしたい、ということ。そこで、自分で調剤薬局をやろうと決意しました。銀行、建築事務所、職業安定所など多彩な現場で活躍する友人たちに、起業の相談に乗ってもらいながら、第1号の調剤薬局をオープンしたのは1988年。いつの間にか、30周年を

迎えました。現在は、26店舗の調剤薬局を、青森県を中心に展開しています。また、地元で栽培された生薬を使い、安全性の高い医薬品をつくるために製薬工場も設置。総合感冒薬「コールドナイン」が製品化されており、2018年夏には胃腸薬も発売する予定です。加えて、介護保険制度スタート時に取得したケアマネージャーの資格を生かし、グループホームも運営しています。

やりたいと思ったことは、やってみる。そんなチャレンジ精神が自然と身についていたのは、いろいろなことにチャレンジできる大学の環境があったからだと思います。「音別～当別マラソン」がその象徴です。

離れていても、同じ大学の仲間。

1977年の夏、第1回学園祭が開催されることになりました。北の大地に足を踏み入れて4年。決して優秀な学生ではなかった私にも、濃密な学生生活を送らせてくれたこの新しい大学のために、私も何かできないだろうかと考えていました。そこで思いついたのが、「音別～当別マラソン」。両キャンパス間350kmもの距離を歩き切るという、今思うと大変無謀な企画です(当時も無謀だと思っていましたが)。しかし、思い切ったことをやれば、新聞記事などにも大学の名前が掲載され、宣伝効果が期待できると思っていました。企画コンセプトも、しっかりありました。音別と当別をつなぐ。物理的な距離は離れていても、みんな同じ大学の仲間だということを、後輩たちに伝えたいからです。

参加したのは、私が所属していた剣道部の部員を中心とする有志17名。もちろん、1日で350kmを歩き切ることは不可能です。学園祭スタートの1週間前に音別キャンパスを出発し、行く先々の街のお寺などに、寝床と食事を提供してもらいました。また、トラックの運転手さんたちの間でも話題になり、アイスキャンディーなどを差し入れしてくれる人も増えて

いきました。たとえ無謀に見えることでも、強い思いでチャレンジすれば、必ず応援してくれる人があられるものです。そして、人とのふれあい、人の支えが、あれほどまで力になると実感できたことは、卒業後の医療人としてのキャリアにも生きている貴重な経験となりました。

結局、当別キャンパスにたどり着き、仲間や先生方の歓声に迎えられたのは、出発から10日後。学園祭最終日に、何とか間に合いました。1日目、2日目は辛くて何度も断念しようと思いましたが、10日目はむしろ元気いっぱい、ゴール後はどんなことでもできそうな気分でした。

情報技術に、かえられないこと。

大切な仲間や尊敬する恩師に出会い、学生時代にしかできないチャレンジを通して、医療とは何かを教えてくれた母校が、私は大好きです。卒業後も給料が出るたびにキャンパスへ足を運んだのも、起業後に医療大の卒業生を積極的に採用してきたのも、後援会の活動に全面的に協力してきたのも、すべてそんな愛校心からです。私たち北海道医療大学は、医療現場で即戦力となり、これからの医療をリードする医療人を育成し続けていく、ひとつの大きなチームだと思っています。

医療大の学生のみならず、そして、卒業生のみならず。学部学科を越えたつながり、そして、全国2万人以上となった卒業生のネットワークを生かして、できるだけ多くの人たちと出会い、語り合ってください。たとえ学部学科や年齢などは違っても、私たちはみんな、同じ大学で医療を学んだ仲間です。

そして、仲間たちとともに多彩な経験を積み、コミュニケーション能力の高い医療人をめざしてください。これからの医療現場では、今までは人が担ってきたさまざまな業務や役割がAIやIoTにかわっていくことでしょう。しかし、人にしかできないことがあります。それは、コミュニケーションです。病気を治したい、という思いを共有すること。それこそが、患者さんに感謝される医療につながります。そして、感謝された経験は、医療人として努力を続ける情熱になるはずですから。



三上さんが企画し、自ら中心メンバーとして350kmを完歩した「音別～当別マラソン」は、1977年当時の新聞にも取り上げられた。記事にも書かれている「母校の名を盛り立ててやろう」という企画の狙い通り、本学のバイタリティあふれる学生が注目を集めた。

2019年4月、札幌あいの里キャンパスに

医療技術学部 臨床検査学科を新設します。

[設置認可申請中] 掲載内容はすべて予定であり、変更となる場合があります。

科学的根拠に基づいた検査データの提供などを通して、医療の進歩に貢献してきた臨床検査技師。

しかし、ますます高度化、複雑化する医療現場では、より幅広い知識と優れた技術を備えた、

高度専門職が必要とされています。本学は、このような社会的要請に

対応するため、2019年4月、新たに「医療技術学部 臨床検査学科」を開設。

臨床検査技師を養成する、道内初の4年制私立大学となります。

そして、6学部9学科の医療系総合大学として、チーム医療を学ぶ教育環境がさらに充実。

これからの医療をリードする、高度な医療人を育成します。

学科DATA

4年制

入学定員60名

札幌あいの里キャンパス

目標とする資格:

●臨床検査技師

その他取得可能な資格:

●食品衛生管理者 ●食品衛生監視員

●健康食品管理士

医療技術学部 臨床検査学科の特色

北海道内で初の、 4年制私立大学。

北海道では3年制専門学校を中心に臨床検査技師の養成を行ってきました。本学では臨床検査の知識や技術だけではなく、医療人としての人間性、チーム医療・地域医療・在宅医療の現場で必要となる多職種理解、コミュニケーション能力などを包括的に学ぶ、4年制の医療系総合大学ならではのハイレベルな教育を展開。臨床検査学をテーマとした卒業研究なども通して、これからの医療をリードする高度な専門職、臨床検査研究に従事する研究職を養成します。

大学ならではの、 先進医療教育。

臨床検査の技術を習得するための基本的な機器だけではなく、即戦力となる高度な専門性を養うために、臨床検査の現場で実際に使用されている高精度の超音波画像解析装置、自動分析機器、パーチャルスライドシステムなどを整備。さらに、ゲノム医療やオーダーメイド医療、再生医療などの先進医療教育を視野に入れた遺伝子解析装置、質量分析装置、細胞培養設備なども導入。大学ならではのハイスペックな環境で、臨床検査の最新の知識と技術を学びます。



学びの舞台は、札幌あいの里キャンパス。JRあいの里教育大駅から徒歩5分とアクセスの利便性に優れており、北海道医療大学病院、地域包括ケアセンターを有しています。臨床検査学科の講義室・実習室は、総合図書館分室、食堂、学生ホールなども備えた既設の講義棟を改修し整備。臨床検査技師を養成する道内初の4年制私立大学として、最先端の環境で高度な教育を展開します。

学部学科の枠を越えて、 チーム医療を学ぶ。

保健・医療・福祉に携わる多職種との連携・協働がますます重要になる中、臨床検査技師にも、チーム医療の一員としての役割が求められています。本学は、医療系総合大学であるメリットを生かし、他の学部学科で学ぶ仲間と合同でグループワークやディスカッションを行う機会を豊富に設けています。また、他の学部学科の教授陣から、臨床検査以外の分野の知識や技術を学ぶ授業も多数。チーム医療、多職種連携への理解を深め、幅広い視野を得ることができます。

総合病院中心の、 体系的な臨床実習。

医療現場からの本学に対する信頼は厚く、札幌市内の総合病院を中心に道内各地の実習施設を多数確保。チーム医療・地域医療をリードする現場で、臨床検査技師に求められる知識や技術、医療人としてのコミュニケーションを学ぶことができます。また、札幌あいの里キャンパスの北海道医療大学病院と地域包括ケアセンターや、超高齢社会を見据えた福祉施設での体験実習、OSCEの導入や事前事後実習の徹底など、本学独自の体系的な実習教育を行います。



多様な資格と、 広がる活躍の場。

臨床検査技師受験資格だけではなく、食品衛生管理者任用資格、食品衛生監視員任用資格、そして、健康食品管理士受験資格が取得可能。食品関連資格に対応しながら、保健・医療・福祉を総合的に学ぶカリキュラムを展開し、多彩な分野で活躍できるこれからの時代の臨床検査技師を養成します。卒業後は、幅広い視野と高度な専門性を生かし、医療機関だけではなく、製薬・試薬・治験分野、食品業界、検査・健康機器メーカーなどへの就職も想定しています。



私の学生時代

看護福祉学部
臨床福祉学科

准教授 佐藤 園美



紆余曲折しながら現在に至る私の人生で、「学生時代」と聞き最初に思い浮かんだのが、日本社会事業学校(日本社会事業大学に併設)研究科での日々です。バックグラウンドが全く異なる約80名とともに一緒に机を並べ、福祉について真剣に学んだ1年間でした。学生の年齢は23歳(大学卒業直後)から50代後半、福祉の分野で長く働いてきた人たちもいれば、それまで福祉とは全く縁のない会社等で仕事をしてきた人(私もその一人)も少なからずいました。一人ひとり何らかの事情や決意を胸に、卒業後は福祉の分野で専門職として仕事をしようと決めた人たちです。

各科目を担当する教師陣は、日本社会事業大学の先生方をはじめとして、当時福祉の各分野で第一人者と言われた人たちでした。授業ではディスカッションも頻繁に行われ、全く違った経験や価値観を持つ人たちが活発に意見を戦わせる討議の内容は、とても興味深いものでした。例えば、1982年にアメリカで起こった「ベビー・ドゥ事件(重い障がいをもつ新生児の治療停止の問題)」に関するクラス全体での討議では、様々な登場人物の思いについて述べていく中で、いつの間にか「子どもを産み育てること」への男女の価値観の違いが浮き彫りになりました。体験も踏まえ語るクラスメイトの言葉に、一人ひとりが真剣に考え発言する、熱気を帯びた授業の様子が今でも目に焼き付いています。まっすぐな学生の眼差しは、時に授業の内容に対する質問



クラスの中で8名だけが日本社会事業大学の学生寮で暮らしていました。写真はその仲間たち。真ん中にいるのが私です。

や疑問として先生方へぶつけられることもあり。ある先生は「研究科での授業は私たちにとっても学ぶことが多く、いい加減な準備で授業はできません。真剣勝負みたいですね」と笑っていらっしゃいました。

1年間で国家試験の受験資格取得をめざすカリキュラムだったため、課題提出や勉強に追われる大変な日々で、苦しいことや困ったこともたくさんあったはずなのに、

当時のことを思い出すと、個性的な人たちと豊かな時間を一緒に過ごせて「楽しかったなあ」という感覚だけが残っています。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は佐藤 園美准教授と桜庭 聡助教のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
作業療法学科

助教 桜庭 聡



私が学生時代を過ごした北海道大学に入学したのは13年前、そのまま大学院博士後期課程修了までトータル9年間という長い学生生活を送りました。入学当初は「どのサークルに入ってやろうか?」などとワクワクしていたものですが、当時自分が見学したテニスのサークルはほとんどがいゆる「飲みサー」。テニスなんてお飾り程

度の活動でアフターの交流会がメインイベントでした。かと言って、部活のような意識高い活動も求めていなかった中途半端な自分は、どのサークルにも所属することなく、大学の講義が終わったらそそくさと浪人生の時にお世話になった某予備校でのアルバイトに向かう日々。サークルとのご縁が無かったのでしょね。その代わり、予備校のアルバイトでは社会集団の中で働く心構え、生徒さんへの学習指導や進路指導の方法、今でも交流がある一緒に働いた先輩後輩など本当にかけがえのないものを得ることができました。「お金を稼ぐ」というよりも単にお試し感覚で社会経験を積みたいだけでアルバイトを始め、大学4年生で長期実習が始まったらスパッと辞めてしまえ…などとよこしまな考えを持っていたことが伝わってしまったのか、バイトリーダーなども押しつけられてしまい、ズルズル続けて気がついたらほぼ9年間やり続けていました。今思うと、アルバイトでやっていた学習指導や進路指導などは「おまごとレベレ」だったの



洞爺湖にみんなで旅行に行ったときの写真(背景は真暗ですが…)。下で寝そべっているのが私。学生のうちはよくみんなで温泉やキャンプなどに行きました。

かも知れませんが、この9年間で培った経験は確実に今、生業として生きていることを実感します。大学生の時は、自分が大学教員になる考えなど毛頭無く、作業療法士として臨床で患者さんとワハハと笑いながらリハビリをして、先の飲みサーでいうテニス活動のようにオマケ程度に研究ができれば良いな、としか考えていませんでした。ですので、アルバイトをしている時には、これが将来の仕事に、しかもこれほどにも直接的に役に立つなど夢にも思いませんでした。今後の人生で役に立つものが何であるかなど、それを得た時点ではわかりっこない、と、人生のことなど語るにはまだまだ早いのですが、日々の小さな経験も将来どこかで役に立つのでは無いかと、密かに考えながら過ごしています。



アルバイトの先輩後輩みんなが企画してくれたサプライズパーティー。中央下のスーツ姿が私。大学のサークルには入れませんでしたが、和気藟々とした雰囲気は居心地が良く、現在でも交流のある先輩後輩がたくさんいます。

OG訪問

歯科医師・土佐愛美さんはニーズの高まりとともに増加している訪問歯科診療の実践者。札幌でまだ実施歯科が少ないころから携わってきた中堅どころです。外来と訪問のバランスはほぼ半々ですが、今回は訪問診療にフォーカスしてご紹介します。

ドゥケア歯科 矯正歯科クリニック(札幌) 副院長
土佐 愛美さん (歯学部歯学科2002年3月卒業)



訪問診療の緊張感

土佐さんが副院長を務めるドゥケア歯科矯正歯科クリニックでは、院長の西山公仁さん(本学歯学部卒業生)はじめ3名の歯科医師全員が外来に加え訪問診療を行っています。土佐さんも2004年の同クリニック就職と同時に訪問診療を始めました。訪問する患者さんの多くは高齢者。当初は認知症の方の対応にとまどうこともあったそうですが、いまは「患者さんの人生のエンディングに携わる大切な分野」と、外来とは違う大きな魅力を感じています。

訪問診療の患者さんは何かしら全身疾患を有するため、学問としても治療としても体から切り離して考えられがちな口腔も体の一部であることを強く意識するといいます。「口腔から全身の状態を知ることができますし、口腔から全身を壊してしまうこともあります。とくに高齢者の場合、間違った歯科治療は生きる力を奪うことになりかねないと、肝に銘じています」。ベッドサイドでより強く感じる緊張感こそ、やりがいを生む原動力のようです。

高齢者施設訪問

取材日の午前、土佐さんは車に歯科治療ユニットを積み歯科衛生士2名と高齢者施設へ向かいました。



「プロ意識の高い歯科衛生士なしでは何もできません」と土佐さん。高齢者施設訪問時は相談員、看護師と情報共有し、介護スタッフの協力も得ます。訪問診療にも息の合ったチームの力が不可欠です。



「こんにちは」と華やかな笑顔で居室を訪ねた土佐さんの口調は終始おっとりで、どの患者さんにも緊張する様子は見られません。しかし、おだやかに話しかけ、せかすことなく患者さんの話に耳を傾けながらも、口腔内を診たり義歯調整する手際は実にあざやか。その間にも歯科衛生士に指示を出し、別の患者さんの口腔ケアが同時進行します。患者さんの体調や気持ちの状態を見て、診療を無理強ひせず話をするだけでまさせることも。歯の治療に固執せず「患者さんその人に寄り添いたい」という土佐さんは、食べる・話す喜びをできる限り持続させること、口腔の苦痛や不快を取り除くことの前に、患者さんとの信頼関係、心のふれあいをとても大切にしています。

約10名の診療をし、その後個人宅で診療、一度クリニックに戻り、午後は高齢者施設、個人宅、計4軒を回るというのがこの日のスケジュールでした。

「先生、俺を看取ってね」

口腔の状態を良好に保てば全身の健康、生活の質が向上する手応えを日々得ている土佐さんですが、就職したてのころは訪問先に向かう車中「こうして運転している間にも同期は現場で実績を積んでいる」と技術面で



診療はベッド、車椅子、患者さんが楽な姿勢で、声がけしながら行います。治療ユニットのほか携帯式レントゲン装置も用意され、訪問先でも外来と同じ治療が可能です。

遅れを取る焦りを感じたことがあったそうです。しかし、外来では得られない経験の価値に気づいたことが自信につながりました。そこには患者さんとの関わりの深さ、難しさの分だけ多くの感動がありました。20代ころ担当した当時80代後半の患者さんは、100歳を超えての大往生まで自宅、入院先、高齢者施設のすべてで土佐さんの訪問診療を希望し「先生、俺を看取ってね」とまでおっしゃったといいます。そしていまも「次はいつ?待ってるよ」と慕ってくれる患者さんがいます。

「卒業してから、精一杯仕事することを毎日続けてきました。もっとできたのにと後悔したくないから。時々、夢の中でも治療しているんですよ」と笑う土佐さん。卒後16年間で得た経験、知識、技術は、この先さらに大きな花を咲かせそうです。



歯周病治療にも力を入れる同クリニックの外来では、患者さんの口腔内の歯周病原菌の有無、細菌の動きをモニターに映し出し、治療の動機付けに役立っています。

2017年度決算

2017(平成29)年度決算は、学園監事による監査を受けた後、5月29日開催の理事会において承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2017年度決算の概要

はじめに

経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。事業活動収支計算書は、経常的収支(「教育活動外収支」)及び臨時収支(「特別収支」)を区分して、それぞれの収支状況を把握できるように作成されています。また、毎期の収支状況を把握できるように現行の基本金組入後の収支差額に加えて、基本金組入前の収支差額が表示されています。

財務情報の公開と閲覧

私立学校法が改正され、2005年4月から財務情報の公開が義務化されました。これに伴い、在学生及び学費負担者、卒業生、教職員、入学予定者等に対し、2017年度「財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書、監事による監査報告書」を閲覧に供しますので、当別キャンパスは経営企画部財務課、札幌あいの里キャンパスは学務部心理科学課に申し願います。また、大学ホームページにも財務情報を公開しております。

なお、学校会計基準改正により2015年度より消費収支計算書が事業活動収支計算書に変更となり、資金収支計算書の付属表として活動区分資金収支計算書が新たに追加されました。

【資金収支計算書】

収入に関しては、学生生徒等納付金収入が予算比8,781万円減、手数料収入が予算比1,600万円減、寄付金収入が予算比1,321.7万円増、補助金収入が予算比3,000万円増、資産売却収入が予算比87万円増、付随事業・収益事業収入が予算比9,712万円減、受取利息・配当金収入が予算比370万円増、雑収入が予算比3,938万円減となりました。収入の計は予算比3,017.1万円減の91,396.1万円となりました。

【事業活動収支計算書】

事業活動収入は予算比2億3,792万円減の9億4,927万円、事業活動支出は予算比1億

3,520万円減の9億1,149万円となり、基本金組入前当年度収支差額は予算比1億2,717万円減の5,657万円のマイナスとなりました。また、基本金組入額は予算比2億3,734万円減の3億1,260万円となり、その結果、当年度収支差額は3億6,917万円のマイナスとなりました。また、基本金取崩額は1億8,172万円となり、翌年度繰越収支差額は、146億4,372万円となりました。

【貸借対照表】

総資産338億5,248万円のうち、固定資産は26億6,837万円、流動資産は71億6,871万円となりました。流動資産のうち現金預金は46億5,922万円です。総負債37億1,761万円のうち、固定負債は24億4,267万円、流動負債は12億7,494万円となりました。これらの結果、総資産から総負債を差し引いた正味資産は301億3,487万円となり、前年対比5,657万円減少しました。

資金収支計算書

【収入の部】	科目	(単位:円)			【支出の部】	科目	(単位:円)		
		予算	決算	増減			予算	決算	増減
学生生徒等納付金収入	6,367,538,000	6,279,722,510	87,815,490	人件費支出	5,312,682,000	5,259,528,810	53,153,190		
手数料収入	104,543,000	88,541,000	16,002,000	教育研究経費支出	2,390,798,317	2,344,047,114	46,751,203		
寄付金収入	58,000,000	190,178,732	△132,178,732	管理経費支出	475,100,683	528,717,881	△53,617,198		
補助金収入	988,053,000	958,048,477	30,004,523	借入金等利息支出	3,000,000	2,942,136	57,864		
資産売却収入	40,000,000	39,126,100	873,900	借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0		
付随事業・収益事業収入	1,396,288,000	1,199,167,554	197,120,446	施設関係支出	280,076,000	121,748,539	158,327,461		
受取利息・配当金収入	40,030,000	43,735,030	△3,705,030	設備関係支出	31,555,000	290,308,762	27,246,238		
雑収入	323,389,000	284,004,284	39,384,716	資産運用支出	0	0	0		
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	744,666,611	749,252,283	△4,585,672		
前受金収入	685,480,000	637,458,500	48,021,500	予備費	30,000,000	30,000,000	0		
その他の収入	446,803,253	459,150,777	△12,347,524	資金支出調整定	△610,000,000	△499,902,687	△110,097,313		
資金収入調整定	△1,280,337,500	△1,039,518,732	△240,818,618	当年度資金支出合計(B)	9,043,878,611	8,964,842,838	147,235,773		
当年度資金収入合計(A)	9,169,786,903	9,139,614,232	30,172,671	当年度繰越収支差額	6,642,165,715	6,759,228,817	△117,063,102		
前年度繰越収支差額	6,516,257,423	6,516,257,423	0	支出の部合計	15,686,044,326	15,655,871,655	30,172,671		
収入の部合計	15,686,044,326	15,655,871,655	30,172,671						

事業活動収支計算書

【総括表】	科目	(単位:円)		
		予算	決算	増減
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	6,367,538,000	6,279,722,510	87,815,490
	手数料	104,543,000	88,541,000	16,002,000
	寄付金	58,000,000	195,171,743	△137,171,743
	経常費等補助金	975,053,000	952,949,811	22,103,189
	付随事業収入	1,396,288,000	1,199,167,554	197,120,446
	雑収入	323,389,000	283,274,732	40,114,268
	教育活動収入計	9,224,811,000	8,998,827,350	225,983,650
事業活動支出の部	人件費	5,316,860,800	5,268,160,510	48,700,290
	教育研究経費	3,357,234,317	3,237,739,316	119,495,001
	管理経費	574,914,683	624,739,764	△49,825,081
	徴収不能額等	4,690,000	19,020,528	△14,330,528
	教育活動支出計	9,253,699,800	9,149,660,118	104,039,682
教育活動収支差額		△28,888,800	△150,832,768	121,943,968
収入の部	受取利息・配当金	40,030,000	43,735,030	△3,705,030
	その他の教育活動収入	0	0	0
収入の部合計	教育活動外収入計	40,030,000	43,735,030	△3,705,030
支出の部	借入金等利息	3,000,000	2,942,136	57,864
	その他の教育活動外支出	0	0	0
支出の部合計	教育活動外支出計	3,000,000	2,942,136	57,864
特別収支	教育活動外収支差額	37,030,000	40,792,894	△3,762,894
	経常収支差額	8,141,200	△110,039,874	118,181,074
	資産売却差額	40,000,000	39,126,370	873,630
	その他の特別収入	38,000,000	23,231,406	14,768,594
	特別収入計	78,000,000	62,357,776	15,642,224
	資産処分差額	10,000,000	8,214,460	1,785,540
	その他の特別支出	0	676,548	△676,548
	特別支出計	10,000,000	8,891,008	1,108,992
	特別収支差額	68,000,000	53,466,768	14,533,232
予備費		30,000,000	30,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額		46,141,200	△56,573,106	102,714,306
基本金組入額合計		△549,952,000	△312,605,185	△237,346,815
当年度収支差額		△503,810,800	△369,178,291	△134,632,509
前年度繰越収支差額		△14,456,275,516	△14,456,275,516	0
基本金取崩額		0	181,725,454	△181,725,454
翌年度繰越収支差額		△14,960,086,316	△14,643,728,353	△316,357,963

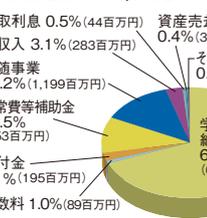
【参考】

(単位:円)			
事業活動収入計	9,342,841,000	9,104,920,156	237,920,844
事業活動支出計	9,296,698,000	9,161,493,262	135,206,538

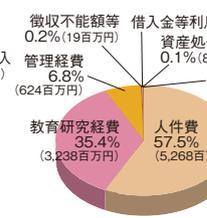
【収入の部】			【支出の部】				
科目	予算	決算	科目	予算	決算		
人件費支出	5,312,682,000	5,259,528,810	53,153,190	教育研究経費支出	2,390,798,317	2,344,047,114	46,751,203
教育研究経費支出	2,390,798,317	2,344,047,114	46,751,203	管理経費支出	475,100,683	528,717,881	△53,617,198
管理経費支出	475,100,683	528,717,881	△53,617,198	借入金等利息支出	3,000,000	2,942,136	57,864
借入金等利息支出	3,000,000	2,942,136	57,864	借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0
借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0	施設関係支出	280,076,000	121,748,539	158,327,461
施設関係支出	280,076,000	121,748,539	158,327,461	設備関係支出	31,555,000	290,308,762	27,246,238
設備関係支出	31,555,000	290,308,762	27,246,238	資産運用支出	0	0	0
資産運用支出	0	0	0	その他の支出	744,666,611	749,252,283	△4,585,672
その他の支出	744,666,611	749,252,283	△4,585,672	予備費	30,000,000	30,000,000	0
予備費	30,000,000	30,000,000	0	資金支出調整定	△610,000,000	△499,902,687	△110,097,313
資金支出調整定	△610,000,000	△499,902,687	△110,097,313	当年度資金支出合計(B)	9,043,878,611	8,964,842,838	147,235,773
当年度資金支出合計(B)	9,043,878,611	8,964,842,838	147,235,773	当年度繰越収支差額	6,642,165,715	6,759,228,817	△117,063,102
当年度繰越収支差額	6,642,165,715	6,759,228,817	△117,063,102	支出の部合計	15,686,044,326	15,655,871,655	30,172,671
支出の部合計	15,686,044,326	15,655,871,655	30,172,671				

■2017年度事業活動収支の構成比率

事業活動収入:9,105百万円



事業活動支出:9,161百万円



貸借対照表

(2018年3月31日)

【資産の部】			
科目	2017年度末	2016年度末	増減
固定資産	26,683,769,473	27,242,902,435	△559,132,962
有形固定資産	19,001,188,618	19,564,670,964	△563,482,346
特定資産	7,100,000,000	7,100,000,000	0
その他の固定資産	582,580,855	578,231,471	4,349,384
流動資産	7,168,712,807	6,968,499,581	200,213,226
資産の部合計(A)	33,852,482,280	34,211,402,016	△358,919,736

【負債・純資産の部】			
科目	2017年度末	2016年度末	増減
固定負債	2,442,671,422	2,534,039,722	△91,368,300
流動負債	1,274,940,821	1,485,919,151	△210,978,330
負債の部合計(B)	3,717,612,243	4,019,958,873	△302,346,630
第1号基本金	44,047,598,390	43,916,718,659	130,879,731
第3号基本金	100,000,000	100,000,000	0
第4号基本金	631,000,000	631,000,000	0
翌年度繰越収支差額	△14,643,728,353	△14,456,275,516	△187,452,837
負債・純資産の部合計	33,852,482,280	34,211,402,016	△358,919,736

正味資産(A)-(B)		
2017年度末	2016年度末	増減
30,134,870,037	30,191,443,143	△56,573,106

■主な事業の実績 2017年度事業計画に基づく、主な事業進捗状況は、以下のとおりです。

■教育及び学生支援活動

【大学院】

- 1.リハビリテーション科学研究所リハビリテーション科学専攻博士(後期)課程の完成
2015(平成27)年4月に開設したリハビリテーション科学専攻博士(後期)課程が完成年度を迎え、高度化・多様化が進む現代の保健・医療・福祉分野において、先進的専門知識と技術をもつ質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職人材を必要とするリハビリテーション領域に関わる最先端教育を通して培われた指導的な役割を担う人材の養成に努めました。
- 2.地域包括ケアセンターを活用した大学院教育の充実・強化
地域包括ケアセンターを活用し、大学院看護福祉学研究所看護福祉学専攻において、認知症ケアの知識や技術強化及びがん専門看護師・ナースプラクティショナー(NP)等の養成課程における臨床・研究に活用し、更なる教育・研究の充実を図りました。
- 3.専門看護師(CNS)の養成
大学院看護福祉学研究所では、専門分野として特定されている13分野(2016(平成28)年12月現在)のうち、がん看護を昨年度更新したほか、2017(平成29)年度は慢性看護、老年看護、精神看護の3分野を26単位から38単位へ切り替え、在宅看護の新規申請を行いました。感染看護も含めた6分野については、引き続き、その養成に努めました。
- 4.特定行為研修およびナースプラクティショナー(NP)の養成
大学院看護福祉学研究所では、2010(平成22)年度から、5年以上の実務経験を積んだ看護師を対象に、医師と協働して作成したプロトコル内「診断・治療」が提供できるナースプラクティショナー(NP)の養成を行っており、2017(平成29)年度についても引き続き、その養成に努めました。
- 5.奨学生支援及び経済的支援の充実
将来、高度専門職人材もしくは教育・研究者として広く活躍する人材を育成するため、特に学業成績および人材に優れた大学院生に奨学金並びに博士課程入学者に対し、その経済的支援として「大学院奨学生」制度を実施しました。

【学部】

- 1.心理科学部の当別キャンパスへの移転
大学全体の活性化に向けて、教育・研究・臨床を包括した大学の機能と役割を充実するため、2015(平成27)年4月に開始した心理学部の当別キャンパスへの移転事業は3年目を迎え、年次計画に基づき事業を推進しました。
- 2.リハビリテーション科学部改組(言語聴覚療法学科)
2015(平成27)年4月に改組したリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科は3年目を迎え、年次計画に基づき事業を推進しました。
- 3.多職種連携教育及び実習教育の充実・強化
地域包括ケアセンターを活用し、地域医療・在宅ケア及び学部学科の枠を超

- えた多職種連携による実習教育の充実・強化に努めました。
- 4.リメディアル教育の充実・支援
第1学年における基礎学力の定着、高校未修得科目の補充教育の充実、学修習慣の修得を目的としたリメディアル教育を支援し、学修の向上に努めました。
なお、薬学部においては、2017(平成29)年度より新たに新規特別講習会(5月から7月の土・日)及び秋季特別講習会(10月から11月の土・日)を実施しました。
- 5.国家試験対策の充実・支援
教育力向上の一環として、国家試験合格者の向上を図るため模擬試験や予備校の補充講義の充実、個別指導の強化、国家試験対策用のシステム構築を行い、スマートフォンによる学習機会を可能にするなど、各学部・学科独自の取り組みを行い、国家試験対策を充実させました。
- 6.教育支援体制の強化
全学部において入学前教育を実施しました。また、全学部を設置している教育支援室または学生支援センターにおいて、個別学習相談・指導、生活支援、リメディアル教育、補修授業の開講等を展開し、学習支援の充実を図りました。
- 7.アドミッションセンター設置
2017(平成29)年4月、入試改革に取り組む体制の整備・強化及び入学選抜の円滑な実施に資することを目的として「アドミッションセンター」を設置し、優秀かつ多様な人材の確保に努めました。
- 8.IR(Institutional Research)組織設置
2017(平成29)年4月、学務部にIR課を設置し、教学等に関する情報の収集・分析、活用により、教育等の改善に努めました。
- 9.就職・キャリア支援
①薬学生セミナー(学内就職相談会)
2017(平成29)年4月に薬学部を対象に道内外の病院、薬局、製薬企業、行政機関等、182団体の参加を得て開催しました。
②学内合同就職相談会の開催(看護福祉学部、心理科学部)
2017(平成29)年9月に臨床福祉学科、臨床心理学部を対象に、北海道内外の病院、介護老人保健施設、社会福祉施設、行政機関など、88団体の参加を得て開催しました。
③就職セミナーの開催
2017(平成29)年9月に歯学部附属歯科衛生専門学校を対象に、道内の歯科医14団体の参加を得て開催しました。
④学内合同就職相談会の開催(心理科学部・リハビリテーション科学部)
2017(平成29)年10月に言語聴覚療法学科、理学療法学科、作業療法学科を対象に、北海道内外の病院、介護老人保健施設、社会福祉施設、行政機関など、119団体の参加を得て開催しました。

10.奨学生支援及び経済的支援の充実

- ①「薬学部・経済的支援奨学生」制度の実施
本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究所博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志望する人物・学業成績ともに優れた者に対し、国立大学の学納金の差額相当分を減免する「薬学部・経済的支援奨学生」制度を実施しました。
 - ②「薬学部特待奨学生」制度の実施
将来活躍が期待される人間性豊かな薬剤師を育成するため、学業成績および人物に優れた薬学部入学者に対し、国立大学の学納金の差額相当分を減免する「薬学部特待奨学生」制度を実施しました。
 - ③「歯学部特待奨学生」制度の実施
将来、歯科医学・歯科医療の分野をリードするという高い志を持ち、人物・学業成績ともに優れた歯学部入学者に対し、その経済的支援として、在学中の6年間学納金(在学立大学の水準以下とする)「歯学部特待奨学生」制度を実施しました。
 - ④「歯学部教育充実費」減免の実施
本学歯学部卒業生の子女に対し、歯学部教育充実費の減免を実施しました。
 - ⑤「福祉・介護人材育成奨学生」制度の実施
人材不足が社会問題となっている福祉・介護専門職の人材育成を図るため、人物・学業成績ともに優れた臨床福祉学科入学者に対し学納金を4年間で390万円減免する「福祉・介護人材育成奨学生」制度を実施しました。
- 【臨床衛生専門学校】
- 1.奨学生支援及び経済的支援
①歯学部附属歯科衛生専門学校学生の入学金減免の実施、A.O.推薦入学者に対する入学金減免制度(半額免除)を実施しました。
- 【全学共通】
- 1.奨学生支援及び経済的支援
①「夢つなぎ入試」の実施
経済的理由により進学が困難な状況にある受験生を対象とした「夢つなぎ入試」を実施しました。
②入学奨励金支給制度の実施
本学卒業生の子や兄弟姉妹で二人以上の入学者を対象とする「入学奨励金」制度(入学金相当額)に加え、本学を卒業又は退学の方の、改めて本学他学科に入学した場合は、入学相当額の奨励金を支給する制度を実施しました。
③震災被災者被害者に対する入学検定料・入学金免除制度の実施
震災被災者又は災害救助法の適用を受けた地域に居住し、本学に入学を志願する者又は入学手続きを行う者の入学検定料および入学金を免除する制度を実施しました。

■主な事業の実績(つづき)

■研究活動

- 厚生労働省「厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)」探採事業の推進
がん予防研究所が中心となって申請を行い採択された2017(平成29)年度厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)「口腔内細菌叢を介した、糖尿病と全身疾患との関わりとその予防戦略」について、事業計画に基づき推進しました。
- 文部科学省「研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」探採事業の推進
2017(平成29)年度文部科学省「研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」に採択された「人と医を結ぶ北海道がん医療拠点形成費等補助金」について、事業計画に基づき推進しました。「がんアロプロフェッショナル養成プラン」(第1期)、「がんアロプロフェッショナル養成推進プラン」(第2期)から引き続き、今期(第3期)も札幌医科大学・北海道大学、旭川医科大学の4大学共同により事業を推進していきます。
- 外部資金の導入
科学研究費など競争的研究資金へより積極的申請を行うとともに、寄付金や受託研究費など外部資金の導入を図っています。なお、2018(平成30)年度科学研究費への申請を1月に行いました。
- 「教育力向上改善プログラム」の公募
本学で行われた教育の質的向上または改善する取り組みを支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的に、学長裁量予算を措置し予算配付しています。(決定3件)
- 長岡技術科学大学との研究交流の推進
2014(平成26)年12月に、国立大学法人長岡技術科学大学と研究交流に関する協定を締結しました。研究交流は、長岡技術科学大学が採択した文部科学省地域産業連携科学技術振興事業補助金「大学発新産業創出拠点プロジェクト(通称「START事業」)」について、医療系総合大学としての本学の特色を生かし、当該プロジェクトを構成する研究の一部に参画しています。

■診療活動

- 大病院では延患者数4,375名増、医療収入27,130千円増、前年度実績を患者数、医療収入はともに下回りました。歯科クリニックは延患者数932名増、医療収入は1,173千円増いずれも前年度実績を上回りました。また、大病院の病床(24床)稼働率は37.3%(2016年度:35.2%)となりました。地域包括ケアセンターでは、訪問看護は利用者数200名増、訪問看護収入10,723千円増、居宅介護は利用者数112名増、居宅介護収入973千円増といずれも前年度実績を上回りました。

■社会貢献・連携

- 地域連携
地域包括ケアセンターにおいて、地域交流サロンの開設、地域住民のための健康づくり支援事業として健康相談の実施及び認知症患者及び家族の支援事業として、認知症サポート養成、啓発講習会、認知症カフェ等の事業を開催しました。
2. 当期「滝川市の包括連携協定の推進
2013(平成25)年に締結した当期及び滝川市の包括連携協定に基づき、本学が有する知的財産、教育研究施設を活用し、保健・医療・福祉をはじめとする幅広い分野において、連携推進協議会及び各部会を立ち上げ当該事業について推進しました。
3. 北海道「介護従事者確保総合推進事業(介護のしごと魅力アップ事業)」探採事業の推進
高校生、高校生の父母、高校教員を対象に、福祉・介護の仕事のイメージアップ

と理解の促進を図り、より多くの学生が、次世代の福祉を担う人材を目指すための意識向上を図るとした当該事業について推進しました。

4. 高大連携

社会貢献の一環と位置付け、高大連携事業として、高校からの要請に応じ、本学教員を派遣しての模範講義および本学にて受け入れた体験学習やインターシップを実施しました。

■生涯学習

1. 薬剤師支援センターにおける薬剤師研修の実施
医療現場において、薬剤師が期待される職務を果たすためには、生涯にわたって継続した自己学習・研修が求められています。これら生涯学習を自己責任のもとで行い、自らスキルアップを図る薬剤師を対象として認定薬剤師が制度化されています。2011(平成23)年度に学内認定制度事業(認定薬剤師支援センター)が薬剤師認定制度機構により認定され7年目となりました。当該支援センターにおいて、引き続き、認定薬剤師研修制度に関する事業を中心として、医療現場との共同研究の推進及び連携事業を実施しています。
2. 認定看護師(CN)の養成
認定看護師は、「日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者」と定義されています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、現在感染管理、認知症看護分野の2分野を開設し、その養成に努めました。
3. 公開講座
認定テーマに沿った内容の充実等、一般向け、卒業生・職能人向けともに本学の特色を生かした講座を継続的に実施しました。
4. 市民医療セミナー
2016(平成28)年4月に北洋銀行と締結した包括連携協定に基づき、市民の健康増進に地域医療への貢献に資することを目的として、「市民医療セミナー」を開催しました。

■国際交流

1. 学・学部間交流
本学では、平成28年度まで大学院5大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナコ大学・極東国立総合医科大学)、学部間8大学(同済大学・ニューヨーク州立大学ブロンクス校・インドネシア大学・ストラスブル大学・中山大・マヒラ大学・エチオピア大学・フティンジュロニブ大学)、1医療機関(ニュージーランド病院)と連携協定を締結し、教育及び学術における国際交流を推進しています。さらに、平成29年度においては国立モンゴル医科大学(モンゴル)、国立プリンシパル医科大学(ポーランド)、医療従事者職能向上研修機関(ロシア)の2大学については、薬学部、歯学部、看護福祉学部、歯科衛生士専門学校において7-8月の間に中山大(歯学部4名)、ストラスブル大学(歯学部2名)、極東国立総合医科大学(歯学部1名)、台北医学大学(薬学部1名、歯学部3名、看護福祉学部5名)の計16名を受け入れ、授業をはじめ実習を実施しました。また2018(平成30)年2月-3月には薬学部(3名)、歯学部(16名)、看護福祉学部(5名)の学生を台北医学大学等の海外提携大学や医療機関へ派遣しました。
2. 語学研修
2017(平成29)年8月にアルバータ大学にて語学研修を実施しました。(参加者数:12名)
3. ロシアとの交流推進
ロシア関係では、2017(平成29)年に開校した極東国立医科大学が5名の研究者を本学に招き合同医療シンポジウムを開催しました。また、11月には茂香学長がロシア連邦大統領府属公共政策アカデミーにて「ロシアにおける胃がん予

防」と題して講演を行いました。

■広報活動

募集広報として新聞や進学雑誌などの広告掲載、またターゲット地域を絞って交通広告を出しています。ホームページの機能面の拡充、メールマガジン発行など電子媒体の活用、また、オープンキャンパスは年5回(レギュラー4回、キャンパス見学会1回)実施しました。

■経営管理

1. 新学部「医療技術学部・臨床検査学」設置
医療系総合大学としての本学の特色を生かし、社会の要請に的確に対応できる高度な臨床検査技術養成を目的として「医療技術学部・臨床検査学」の設置について、2019(平成31)年度の開設に向け、2018(平成30)年5月、文部科学省への「学部の設置認可申請」及び「寄附行為の変更認可申請」を行いました。
2. 人件費抑制
将来にわたる定定的・継続的な経営に向けた取り組みに早急に着手する必要性を踏まえ、役員年俸(12月)30%削減および人事院勧告に基づく給与改定の見直しを実施し、人件費の抑制を図りました。
3. 自己点検評価
公益財団法人認定書基連協会が実施する「認証評価」に申請し、「大学基準に適合している」との認定を受けました。なお、認定期間は、2025年3月31日までの7年間です。
4. 社会医療法人社団カシオサポロとの連携
2016(平成28)年4月に締結した「社会医療法人社団カシオサポロ」との連携協定に基づき、地域医療の充実を目指した連携事業の推進を図りました。
5. 予算の効率化・削減
各部署に配付された予算の執行にあたって、事業計画に優先順位を付し、効率のよい執行に努めました。

■施設・設備

1. 看護福祉学部棟マルチメディアAV機器の更新(20,156千円)
看護福祉学部棟マルチメディアAV機器を更新し、教育環境の整備を図りました。
2. 看護福祉学部講義室空器の更新(9,979千円)
看護福祉学部講義室空器(N26-2講義室)を更新し、教育環境の整備を図りました。
3. リハビリテーション科学部学習支援センターの増設(2,019千円)
リハビリテーション科学部学習支援センターを増設し、教育環境の整備を図りました。
4. 薬学部実習室(2-3階)機器の更新(3,324千円)
薬学部実習室機器等を更新し、教育環境の整備を図りました。
5. 動物実験センター個別換気システムの導入(28,829千円)
動物実験センター個別換気システムを導入し、教育・研究環境の整備を図りました。
6. 歯科クリニックユニット更新(25,565千円)
歯科クリニックユニットを年次計画により更新し、診療及び歯学部臨床教育における教育環境の整備を図りました。
7. 当別キャンパス照明器具LED化の整備(8,621千円)
当別キャンパス照明器具LED化を整備し、構内環境の充実を図りました。
8. 総合図書館エレベーターの更新(12,506千円)
総合図書館のエレベーターを更新し、構内環境の充実を図りました。
9. 新中長期計画の検討
2009(平成21)年度に計画された「2020年行動計画」は9年目を迎え最終に見直し、創立50周年を含め将来を見据えた本学園の中長期行動計画を策定し、計画の柱を「教育」において「新中長期計画」の検討を進めていく予定です。

学校法人 東日本学園

2018年度予算

2018(平成30)年度当初予算は、3月20日開催の評議員会・理事会、予算の補正は、5月29日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2018年度予算の概要

概要

私立大学をめぐる経営環境はこれまで以上に厳しい状況にあります。近年120万人前後で推移してきた18歳人口は2018(平成30)年から更なる減少期を迎え、私立大学において志願者の獲得競争が一層激しさを増し、学生の安定確保が重要課題となっております。

こうした状況下においても、時代の要請に応えるための教育・研究の質を維持向上させるため、計画的な環境整備、施設整備を行う他、2019(平成31)年度の開設を目指す「医療技術学部・臨床検査学」設置申請を行います。さらには2024年の創立50周年を見据え、少子高齢化の中での生き残りをかけて「より魅力ある大学づくり」を継続していく予定です。

また、2018(平成30)年度の中産層編成では、収入面において、収容定員を基礎とする学生生徒納付金収入が大きく依存する傾向は変わらない中、収入増を見込むことは難しく、財政状況が見込まれ、限られた財源の下に、健全な計画を立て、本学の資源を最大限に生かしながら重要性・緊急性を勘案し、最小コストで最大効果を上げる事業計画を遂行していきます。

【資金収支予算書】

収入に関しては、前年度予算比2億9,678万円減の88億7,300万円を見込んでいます。科目別には、学生生徒等納付金収入、手数料収入、付随事業・収益事業収入において減収が見込まれております。

また、支出に関しては、前年度予算比7,231万円増の91億1,619万円を見込んでいます。主な増加としては、新学部設置に係る機器備品等の設備関係支出、老朽化した心理学部棟及び大病院のエレベーター更新工事、さらには心理学部棟改修工事に関する施設関係支出によるものです。

以上のことから、翌年度繰越支払資金は前年度予算比1億2,612万円減の65億1,603万円を見込んでいます。

【事業活動収支予算書】

事業活動収支予算書は、経常的収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」)および臨時的収支(「特別収支」)を区分してそれぞれの収支状況を把握できるように作成されています。

また、毎期の収支状況を把握できるように基本金繰入前の収支差額を基本金繰入後の収支差額が表示されています。

資金収支予算書

【総括表】	科 目	2018年度予算	2017年度予算	増 減
収入の部	学生生徒等納付金収入	6,213,109,000	6,367,538,000	△ 154,429,000
	手数料収入	100,921,000	104,543,000	△ 3,622,000
	寄付金収入	54,000,000	58,000,000	△ 4,000,000
	補助金収入	954,775,000	988,053,000	△ 33,278,000
	資産売却収入	40,000,000	40,000,000	0
	付随事業・収益事業収入	1,262,073,000	1,396,288,000	△ 134,215,000
	受取利息・配当金収入	40,030,000	40,030,000	0
	雑収入	326,806,000	323,389,000	3,417,000
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	682,896,000	685,480,000	△ 2,584,000
その他の収入	434,734,382	446,803,253	△ 12,068,871	
資金収入調整差	△ 1,236,342,500	△ 1,280,337,350	△ 43,994,850	
計	8,873,001,882	9,169,786,903	△ 296,785,021	
前年度繰越支払資金	6,759,228,817	6,516,257,423	242,971,394	
収入の部合計	15,632,230,699	15,686,044,326	△ 53,813,627	
支出の部	人件費支出	5,381,264,000	5,312,682,000	68,582,000
	教育研究経費支出	2,403,288,617	2,390,798,317	12,490,300
	管理経費支出	463,397,383	475,100,683	△ 11,703,300
	借入金等返済支出	3,000,000	3,000,000	0
	借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0
	施設関係支出	422,036,000	280,076,000	141,960,000
	設備関係支出	362,523,000	317,555,000	44,968,000
	雑運用支出	0	0	0
	その他の支出	595,350,675	744,666,611	△ 149,315,936
	予備費	30,000,000	30,000,000	0
資金支出調整差	△ 644,666,000	△ 610,000,000	△ 34,666,000	
計	9,116,193,675	9,043,878,611	72,315,064	
翌年度繰越支払資金	6,516,037,024	6,642,166,715	△ 126,129,691	
支出の部合計	15,632,230,699	15,686,044,326	△ 53,813,627	

①教育活動収支

事業活動収入の部は学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入及び雑収入の合計であり、総額88億9,868万円となります。一方、事業活動支出の部は、人件費の53億8,220万円、教育研究経費の資金収支計算書に計上された全額に減価償却8億7,365万円を加算した32億7,694万円、管理経費の資金収支計算書に計上された全額に減価償却6,980万円を加算した5億3,319万円です。よって総額は92億2,529万円となり、教育活動収支差額は2億6,611万円のマイナスとなります。

②教育活動外収支

事業活動収入の部は、受取利息・配当金の4,003万円です。一方、事業活動支出の部は、借入金等利金の300万円です。よって、教育活動外収支差額は4,303万円のプラスとなり、経常収支差額は2億9,958万円のマイナスとなります。

③特別収支

事業活動収入の部は、資産売却差額の4,000万円、現物寄付の2,000万円、施設設備補助金の1,300万円であり、総額7,300万円となります。一方、事業活動支出の部は、資産処分差額の2,849万円となり、その結果、特別収支差額は4,451万円のプラスとなります。

以上から、予備費の9,000万円を引いた基本金繰入前当年度収支差額は2億7,507万円のマイナスとなります。また、基本金繰入額の7億3,167万円を組み入れることにより、当年度収支差額は10億674万円のマイナスとなります。

事業活動収支予算書

【総括表】	科 目	2018年度予算	2017年度予算	増 減	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	6,213,109,000	6,367,538,000	△ 154,429,000	
	手数料	100,921,000	104,543,000	△ 3,622,000	
	寄付金	54,000,000	58,000,000	△ 4,000,000	
	経常費等補助金	94,775,000	97,053,000	△ 2,278,000	
	付随事業収入	1,262,073,000	1,396,288,000	△ 134,215,000	
	雑収入	326,806,000	323,389,000	3,417,000	
	教育活動収入計	8,898,684,000	9,224,811,000	△ 326,127,000	
	支出の部	人件費	5,382,204,000	5,316,860,800	65,343,200
	教育研究経費	2,376,947,617	2,357,234,317	△ 20,713,300	
	管理経費	533,197,383	574,914,683	△ 41,717,300	
徴収不能額	32,945,000	4,690,000	28,255,000		
教育活動支出計	9,225,294,000	9,253,699,800	△ 28,405,800		
教育活動収支差額	△ 326,610,000	△ 28,888,800	△ 297,721,200		
教育活動外収支の部	受取利息・配当金	4,030,000	4,030,000	0	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	4,030,000	4,030,000	0	
	借入金等利息	3,000,000	3,000,000	0	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	3,000,000	3,000,000	0	
	教育活動外収支差額	37,030,000	37,030,000	0	
	経常収支差額	△ 289,580,000	8,141,200	△ 297,721,200	
	収入の部	資産売却差額	4,000,000	4,000,000	0
		その他の特別収入	33,000,000	38,000,000	△ 5,000,000
特別収入合計		73,000,000	78,000,000	△ 5,000,000	
支出の部		特別収入	28,490,000	10,000,000	18,490,000
その他の特別支出		0	0	0	
特別収支差額		28,490,000	10,000,000	18,490,000	
特別収支差額		44,510,000	68,000,000	△ 23,490,000	
予備費		30,000,000	30,000,000	0	
基本金繰入前当年度収支差額		△ 275,070,000	46,141,200	△ 321,211,200	
基本金繰入額合計		△ 731,673,000	△ 549,952,000	△ 181,721,000	
当年度収支差額	△ 1,006,743,000	△ 503,810,800	△ 502,932,200		
前年度繰越収支差額	△ 14,643,728,353	△ 14,456,275,516	△ 187,452,837		
基本金繰入額	0	0	0		
翌年度繰越消費収支差額	△ 15,650,471,353	△ 14,960,086,316	△ 690,385,037		
【参考】	事業活動収入計	9,011,714,000	9,342,841,000	△ 331,127,000	
	事業活動支出計	9,286,784,000	9,296,699,800	△ 91,815,800	

■主な事業計画

■教育及び学生支援活動

【大学院】

1. 公認心理師の養成
2. 地域包括ケアセンターを活用した大学院教育の充実・強化
3. 専門看護師(CNS)の養成
4. 特定行為研修およびオーストラリアクティオン(NP)の養成
5. 奨学事業及び経済的支援の充実

【学 部】

1. 公認心理師の養成
2. 心理学部の当別キャンパスへの移転
3. リハビリテーション科学部改組(リハビリテーション科学部言語聴覚療法科の設置)
4. 多職種連携教育及び実習教育の充実・強化
5. リメディアル教育の充実・支援
6. 国家試験対策の充実・支援
7. IR(International Research)推進センターの設置
8. 6. ドックンセンターによる入試改革の推進
9. 教育力向上・改善プログラムの実施
10. 奨学事業及び経済的支援の充実

【歯学部附属歯科衛生専門学校】

1. 奨学事業及び経済的支援の充実
2. 国家試験対策の充実・支援

■研究活動

1. がん予防研究の推進
2. 文部科学省「研究拠点形成費補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)」探採事業の推進
3. 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の推進(申請予定)
4. 外部資金の導入
5. 重点配分研究費
6. 長岡技術科学大学との研究交流の推進
7. 診療活動
1. 医療機関の経営健全化
2. 訪問看護・居宅介護事業
3. 社会貢献・連携

■地域連携・地域交流

1. 滝川市との包括連携協定の推進
2. 北海道「介護従事者確保総合推進事業(介護のしごと魅力アップ事業)」探採事業の推進
3. 高大連携
4. 当別キャンパス事業
5. 本学施設の地域への開放

■生涯学習

1. 薬剤師支援センターにおける認定薬剤師研修の実施
2. 認定看護師(CN)の養成
3. 公開講座
4. 市民医療セミナー
5. 専門職職人の生涯学習

■国際交流

1. 国際交流センター
2. 大学・学部間交流
3. 語学研修
4. ロシア・サハリン州・沿海州との交流推進

■経営管理

1. 医療技術学部・臨床検査学(新学部)設置申請
2. 予算の効率化・削減
3. 学園運営計画に基づく借入金の返済
4. 施設・設備
1. 新学部の設置に伴い、心理学部棟の改修及び機器・備品の整備
2. 薬学部実習室(2-3階)及び中央講義棟臨床実習室(1階)機器等の更新及び教育環境の整備
3. リハビリテーション科学部演習室等の機器等の更新及び教育環境の整備
4. CALL教室10の更新及び教育環境の整備
5. 歯科衛生士専門学校臨床実習室シミュレーション台の更新及び教育環境の整備
6. 歯科クリニック歯科用ベアラ装置の更新及び教育・診療環境の整備
7. 心理学部消化内科病態医師採用に伴い、病棟設備の更新及び診療環境の整備
8. 理学部実習室及び大病院エレベーターの更新
9. 各学部講義室及び実習室等の空調設備の更新及びエネルギーの効率化・省エネの実施

■その他

1. 情報の積極的な公開
2. 新中長期計画の検討

2018年 新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて出願したのかを聞いてみました。

すべての学科において、「医療系総合大学である」点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また、「キャンパス環境」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

注目が集まる「国家試験成績」と「学生生活」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「学生生活」を挙げる学生も多く、自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

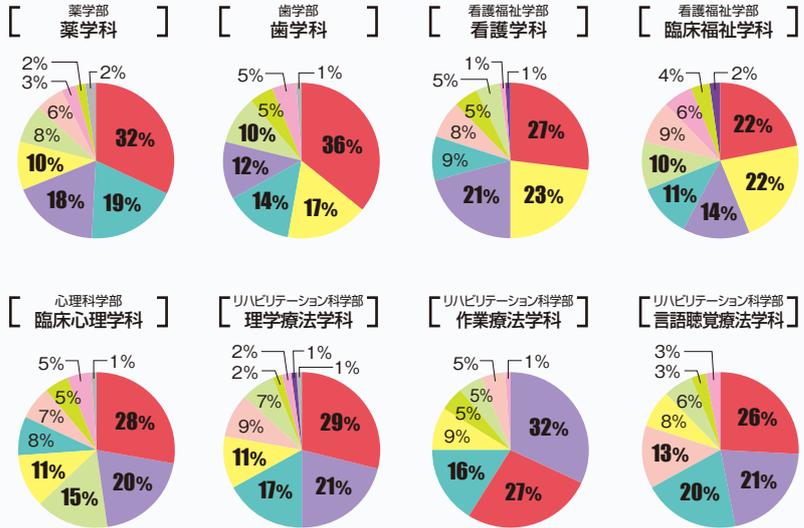
歯科衛生士専門学校では、「大学歯学部附属の専門学校だから」が1位に。

本校を選んだ理由では、「大学歯学部附属の専門学校だから」が最も多く、「施設・設備が整っている」「他学部との交流がある」にも回答が集まりました。

北海道医療大学

Q. 併願を考えた他大学と比べて本学のどのところに魅力を感じましたか？

- 医療系総合大学である
- キャンパス環境
- 国家試験成績
- 学生生活
- クラブ活動
- 教育理念
- 就職状況
- 教育内容
- たくさんの教育・研究プロジェクトに採択されている
- その他



歯学部附属歯科衛生士専門学校

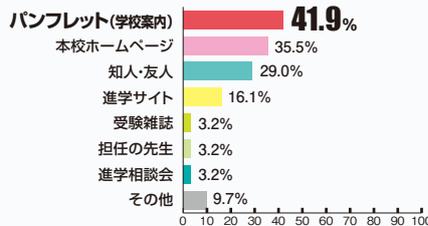
Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？ 参加した 67.7%

Q. 本校を選んだ理由は何ですか？ (複数回答可)

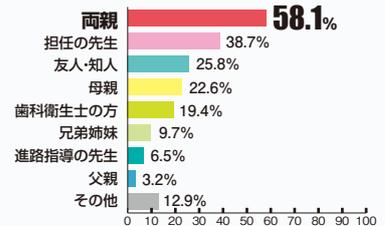
- 1位 大学歯学部附属の専門学校だから 83.9%
- 2位 施設・設備が整っている 74.2%
- 3位 他学部との交流がある 54.8%

同率4位 学費が安い、就職に有利である、家族・知人の勧め(25.8%)、7位 国家試験の合格率が高い(22.6%)、8位 教育内容や教員スタッフが優れている(16.1%)、9位 先生の勧め(3.2%)

Q. 本校を何で知りましたか？ (複数回答可)



Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？ (複数回答可)



EDITOR'S NOTE

四季の変化を感じながら、月日の流れの早さに自分自身でも驚いています。皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。夏至が過ぎ、北海道も夏本番となりました。4月には多くの新入生を迎え学内にもぎやかになり、大学祭も盛況のうちに終了いたしました。記事にもありますように、来年度は新学部を開設(設置認可申請中)し、新たな医療人を育てることとなります。すでに本学出身の医療人は全国各地で活躍しており、母校に多大なる力を与えてくれています。皆様にそのような大学・専門学校の様子を今後もお届けしたいと思います。本誌が母校を顧みる一助となれば幸いです。皆様からの情報お待ちしております。(N・H記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.170

STAFF ● 遠藤 泰 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
三川 清輝 小林 伶

発行日 ● 2018年7月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL: 0133-23-1211(代表)
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌へのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail: nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。